



# Team Dainan

八千代市立大和田南小学校  
《校長室だより》  
令和3年度 第44号  
令和4年 3月 4日

## みなさんは、どんなときにワクワクしますか？

～2年生 ワクワクする自分に向き合うワークショップ～



みなさんは、どんなときにワクワクしますか？私は、先日行われたサステナブル・ブランド国際会議2022 横浜に参加した際、SDGsの取組について発表した高校生の話にワクワクしました。高校生が行った取組事例が本校の6年生が行った活動と共通するところがあったからです。

さて、今回校長室だよりで紹介する「ワクワクする自分に向き合うワークショップ」は、子供たちに、今

の自分がどういうことにワクワクするのか、自分のことを外側からとらえてみる活動を通して、「自分らしく生きる」ための一助になればと考え、計画しました。

ゲストティーチャーとしてWebでお話をしてくださったのは、大和ライフネクストにお勤めの工藤 真由美 様です。工藤様は、自己紹介の中で、「世の中全ての人が ワクワクする気持ちを大切にしながら生きていくことを応援する …それが私の仕事です。」とおっしゃっていました。

また、子供たちに「あなたがワクワクするときって、どんなときですか？」「小さいときに夢中になったこと、家族や友達、先生と一緒に過ごした時間で忘れられないこと、今日はたくさん思い出してくださいね。」ともおっしゃっていました。

今回の学習では、次の2つのワークシートを使いました。

### 1. ワクワクシート

ワクワクシートでは、これまで最もワクワクしたベスト3を書きました。

- ①小さいころから時間を忘れてやっていたこと
- ②ワクワクした場所や景色
- ③聞いたり、見たりしているとワクワクするお仕事

### 2. ワークグラムシート

ワークグラムシートは、「何かを作ることが好きか？」や「今までに行ったことがない場所に行くのが好きか？」などの質問に対して、自分の楽しい気持ちを0～10点の間で付けていきました。

今回の学習では、「自分のいいところってなんだろうなあ」「得意なことって何だろうなあ」を発見する活動を通して、みんな同じではなく、みんな違う、それぞれの楽しいことが見つかる学習になったのではないかと思います。



ワークグラムシートに取り組む子供たち

# 4年生“届けよう、服のチカラ”プロジェクト

～4年生の子供たちにもできることがあります。～

大和田南小学校では、ユネスコスクールとしてESD (Education for Sustainable Development) の略で「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」を推進していくため「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに取り組んでいます。

“届けよう、服のチカラ”プロジェクトは、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)とファーストリテイリング様が取り組む、小・中・高校生が対象の参加型の学習プログラムです。本校では、(株)ユニクロ フルルガーデン八千代店の方による出張授業を受けたのち、4年生の子供たちが主体となって着なくなった子供服を回収しました。回収した服は、難民などの服を必要とする人々に届けられることになっています。

今回の取組に対し、ファーストリテイリング様から下記のような感謝状をいただきましたので紹介いたします。

<p style="text-align: center;"><b>感謝状</b></p> <p style="text-align: center;">WORDS OF APPRECIATION</p> <p style="text-align: center;">2021年度 “届けよう、服のチカラ”プロジェクト</p> <p style="text-align: center;">On behalf of the refugees of the world, We would like to express our sincere gratitude for your generous support to those who have been forced to flee their own land. Your support is a gift of hope for their future.</p> <p style="text-align: center;">皆様からお寄せいただいた温かいご支援は 故郷を追われ困難に直面している人々が、 未来への希望を持って生きていく大きな力となります。 ここに世界の人々に代わって 謹んで感謝の意を表します。</p> <p style="text-align: center;">2022年1月</p> <table border="0" style="width: 100%;"><tr><td style="width: 50%; text-align: center;">株式会社ファーストリテイリング 代表取締役会長兼社長 柳井正</td><td style="width: 50%; text-align: center;">UNHCR駐日事務所 駐日代表 カレン・ファルカス</td></tr></table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"><div style="text-align: center;"> <small>Chairman, President and CEO, FAST RETAILING CO., LTD. Toshino Yoshino</small></div><div style="text-align: center;"> <small>UNHCR Representative in Japan Karen Farukas</small></div></div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"></div>	株式会社ファーストリテイリング 代表取締役会長兼社長 柳井正	UNHCR駐日事務所 駐日代表 カレン・ファルカス	<p style="text-align: center;"> “届けよう、服のチカラ”プロジェクト 2021年度参加校のみなさまへ</p> <p>この度は、“届けよう、服のチカラ”プロジェクトへのご参加と、子ども服の回収にご協力をいただきありがとうございました。 2021年度は、47都道府県より合計625校にご参加いただき、約80万着の子ども服を回収することができました。集まった子ども服は、服を必要とする世界中の子どもたちのもとへ、順次お届けします。</p> <p>弊社では例年、従業員が服の寄贈先を訪ねて回収服を届ける活動を実施しており、その際に現地で撮影した写真を用いて、実際に服が手渡される様子や受け取った子どもたちの表情などを、フォトレポートでお伝えしています。 しかし、21年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況下で、服の寄贈は順次進めているものの、従業員が直接現地に伺うことができませんでした。そのため、今回はこれまでの寄贈の様子のハイライトを、写真を織り交ぜてお伝えします。レポートは下記のリンクから、確認(ダウンロード)いただけます。児童・生徒のみなさまとぜひ一緒にご覧いただき、協力いただいた方への報告等にお役立てください。</p> <p>URL : <a href="https://fastretailing365.sharepoint.com/:b/s/OnetimeShare_PJ/EVt8clvzmmFLjLjNL9_p35cBRfwdNAH8FRvPiF41FD87w?e=DqgDTB">https://fastretailing365.sharepoint.com/:b/s/OnetimeShare_PJ/EVt8clvzmmFLjLjNL9_p35cBRfwdNAH8FRvPiF41FD87w?e=DqgDTB</a>      QRコード : </p> <p>いずれの場所でも、服の寄贈は大いに喜ばれています。役目を終えた服にも、まだまだ大きなチカラがあります。協力いただいた方々の想いと共に、今後も現地に届けて参ります。</p> <p>各学校からの、校内や地域の方々への呼び掛けにより、難民問題に関心をもってくださった方もきっと多いことと思います。問題を知る人が一人でも増えることが、解決への第一歩につながり、世界を良い方向に変えていけることを、私たちは強く願っています。</p> <p>2022年度は、2月1日(火)より弊社Webサイトから参加校募集を開始いたします。再び、みなさまと一緒に活動できる日を、心よりお待ちしております。</p> <p style="text-align: right;">株式会社ファーストリテイリング サステナビリティ部</p>
株式会社ファーストリテイリング 代表取締役会長兼社長 柳井正	UNHCR駐日事務所 駐日代表 カレン・ファルカス		

## 地域にお住まいの方からうれしいお手紙をいただきました。

～省略～ 小生は大和田図書館の裏に住んでおりますが、いつも大和田南小学校の朝の登校に小学生の皆様が元気よく登校していきます。生徒の皆様の朝の挨拶が良く、生徒の方から「おはようございます」と元気な声で挨拶され、朝から本当に気持ちが明るくなります。

日頃の学校の教育の良さをつくづくと感じております。コロナ騒のなか、心あたたまる挨拶に元気をもらっています。生徒の皆様心に心から応援したくなります。～省略～

挨拶は、相手の存在を認める第一歩になります。挨拶をされた方は、なんとなくうれしくなります。それは、「私のことに気づいてくれた」と承認欲求を満たすことになるからです。おそらくこの手紙の中に出てくるお子さんは、「笑顔で」「相手の目を見て」「相手に伝わる適切な声の大きさで」ができていたのではないかと思います。朝、起きたとき、家を出るとき、帰ってきたときなど挨拶をする機会は数多くあります。挨拶の持つ「チカラ」を考えて挨拶ができるようになると、一日がよりすてきなものになるのではないのでしょうか。